

【第21回生きがいつくりシンポジウム】開催ご報告

(主催 「生きがい世田谷の会」)

日時：平成28年3月27日(日) 14:00～16:30

場所：昭和女子大学・学園本部館・3階・大会議室

講演：第一部 落語独演会 噺家 立川 談幸 師 演目「紺屋高尾」

第二部 「気功教室」 気力研究所 西崎 孝夫

当会の年間活動行事のメイン・イベントであるシンポジウムも回を重ね、21年目に入り、本年は161名の参加を得、開催されました。講演会に先立ち、世田谷区から来賓として生活文化部生涯現役推進課長・皆川健一様のご臨席を賜り、ご挨拶を頂きました・・・『世田谷区の人口も90万人を超え、高齢化が益々進んで来ているものの、逆に健康で元気なお年寄りも多く、地域での支え合いボランティア活動も活発で大変結構なことであり、行政から見ても心強い限りです。今後とも引き続き、更に社会貢献に大きく寄与して頂く為には各ボランティア団体の若返り(50代・60代の地域デビュー参加)を図って頂かれる事を切に期待している』とのお話がありました・・・。

さて本年のシンポジウムの講演は、著名な噺家をお呼びして、落語独演会を企画いたしました。最近、特に若者にも人気と評判の「落語」にスポットを当てました。一般の年配者達にも果たして受けるかどうか心配しておりましたが、多数のご参加を頂き、主催者側としてホッとしているところです。本来であれば「生きがい世田谷の会」の主たる活動精神である「健康づくり」「生きがいつくり」(生きがい探し)をテーマに格調の高い講演会を模索しておりましたが、落語という日本古来の伝統芸能・文化に触れ、「温故知新」(古きを訪ね、新しきを知る)、それぞれ「生きてきた証し」として、我が身を振り返ってみるのも、意義のあるボランティア活動であったのではと思っています。

立川談幸師の独演会はパートを2つに分け、パート1は現代の世相を反映したウイットに富んだ小話で笑いを誘い、パート2では演目「紺屋高尾」を演じて頂きました。熱演は途切れることなく、あっという間の80分でした。

紺屋高尾(こうやたかお)は古典落語、浪曲の演目の一つで、数多く日本の時代劇映画の題材ともなった。江戸を舞台に、花魁の最高位である高尾太夫と、一介の紺屋の職人、久蔵との純愛をテーマに捉えた名品。主な演者は、落語家では、4代目柳亭左楽、6代目三遊亭圓生、7代目立川談志(談幸の師匠)、立川志の輔など。落語は単に笑わせるだけではなく、泣きもまたあり、人情の深みを切々と語るのが神髓だと良く判りました。感動の演目でした。

また第二部の「気功教室」は毎年好評で、当会会員の西崎孝夫さんの指導の下、「気」を一杯体に吸い込み、明日の活力になりました。[長谷川宏 記]